

花新聞

花を愛し、花の輪を広げよう。

HANA
SHINBUN

第18号

北九州市建設局
公園緑地部緑政課花係

T803-8501 小倉北区城内1-1 ☎093(582)2466

花新聞キャラクター
ビビちゃん

なんじやもんじや通り(戸畠区)のヒトツバタゴ

街路樹の花

街の景観をうるおわせ、
心には慰めと癒しを。

ごぞんじですか？ 街路樹の花たち

あるときは新緑や紅葉で運転に疲れたドライバーの心を慰め、またあるときは夏の暑い日さしをやわらげて歩行者の憩いの場となる街路樹。街路樹の花というと、真っ先に思い浮かべるのは「サクラ」という方が多いのではないかでしょうか。じつはサクラ以外にもきれいな花を咲かせる木がたくさん植えられているのです。

今回の花新聞では「街路樹の花たち」と題して、市内に植えられている街路樹のうち、ヒトツバタゴ(なんじやもんじや)を中心に関連する花を咲かせる木を紹介します。
(開花時期はいずれも目安です)

ヒトツバタゴ 雪のような美しさ

ヒトツバタゴは、別名で「なんじやもんじや」とも呼ばれるモクセイ科の落葉樹です。

中国福建原産で、国内では長崎県対馬・長野・岐阜・愛知県の一部などに分布しており、自生地の一部は国の天然記念物に指定されています。

ヒトツバタゴの学名を意味すると「雪のようない花」。その名のとおり、開花する4月下旬～5月上旬には白い花が新緑を覆い、あたかも季節はずれの雪

が降り積もったような優美な姿になります。

市内では戸畠区のなんじやもんじや通り(天願寺一丁目周辺)、若松区の南海岸通り(本町一丁目周辺)、門司区の老松公園周辺(老松町周辺)などに植えられています。また、なんじやもんじや通り周辺では、「なんじやもんじや祭り」が開花時期にあわせて開催されます。

その他の街路樹の花

コブシ

モクレン科の落葉

広葉樹です。3月～

4月に、香りのよい

白い花が樹冠全体

を覆うように咲き

ます。



ハクモクレン

モクレン科の落葉

広葉樹です。3月～

4月に、白い色

の香りのよい大き

な花が咲きます。



まだまだあります！ 街路樹の花
ここでご紹介したほかにも、ヤマボウシ、ユリノキ、タイサンボク、サルベリアなど、花を楽しめる木が街路樹として植えられています。

皆さんの周りに植えられている街路樹も、一年に一度、華麗に変身しているかもしれません。見逃さないでくださいね！

ヒトツバタゴ
ミズキ科の落葉広葉樹です。4月～5月に、赤または白の花が咲きます。秋には紅葉も楽しめます。



花係のお仕事レポート拡大版

福祉施設と連携した花の街づくり

○どんな事業なの?

北九州市では、市民の皆さんと一緒に「花咲く街づくり事業」を進めています。

「福祉施設と連携した花の街づくり事業」はこの一環として取り組んでいるもので、花づくりの持つ効果にも注目した事業です。高齢者施設や障害者施設などの福祉施設と連携して花づくりを進めることにより、多くの皆さんのが参加による花の街づくりを目指しています。

○花づくりの方法がわからぬのですが…

ご心配なく活動の初年度は、花係の職員が技術指導を行います。また、市が行う花づくりの技術講習会にスタッフの方も参加できますので、花づくりの技術を無理なく身に付けることができます。

○どんな効果があるの?

花を育てることにより、施設入居者(利用者)の生きがい対策へつながるとともに、身体のリハビリ効果なども期待できます。

また、多くの人が利用する公園へ花苗を提供することにより、地域から喜ばれるとともに、施設入居者(利用者)と地域の交流が深まります。

○具体的には何をするの?

福祉施設の中で、市が支給した土、肥料、花の種などの育苗材料を使って、花苗を育てていただきました。年間で600ポット以上を育苗していただき、その半分(3分の2程度)を施設の近くにある公園に植付け(または配布)します。苗の一部は福祉施設を飾るため利用できます。

○申し込み方法は?

花係にお問い合わせください。詳しくご説明させていただきます。ご連絡お待ちしています!

【八幡西障害者地域活動センター】



【小嶺江藤病院】



【薬翁荘】



こんな施設と一緒に活動しています!!



■お問い合わせ先
北九州市建設局緑政課花係
TEL.093-582-2466
FAX.093-582-3114

●何をかが楽しい! 花づくりの効果に注目

八幡西障害者地域活動センター



北九州市は福祉施設とともに連携して「花いっぱいの街づくり」をすすめています。そこで今回は八幡西障害者地域活動センターで市民花壇などの花づくりを楽しんでいらっしゃる仲良し6人組の皆さんにお話を伺つてきました。皆さんは施設での毎日の生活の中で自主的に花時間を利用して市から配布された種や苗を自由に育てていくのです。

「疲れてたり、寒い時はしないよ」とみんなで笑いますが、「花づくりは何もかもが楽しい。種まきも、芽生えも、育つ途中も、花も、そして枯れた時の世話も全部」と眼を輝かせます。また月に1~2回「コミュニケーション」という育てた花をボランティアの方々と市民花壇

でその効果にも注目です。

皆さんが毎日乗つてくるバスは施設入り口の桜並木の下にある市民花壇の横を通ります。行きも帰

りも必ず花壇を見て、花が咲くところに教え合おうのです。今後香月地区を自分たちで花いっぱいにして、街のみんなに楽しんでみたい」と話してくれました。きれいな眼差しはどこまでも拡がる花でいっぱいの光景を思い浮かべてい

春先に黄色の花がたくさん咲くと聞いて植えたウンナンオウバイ。それが真冬に突然花を咲かせびっくり。原因は換気扇でした。室内の暖かい空気がベランダの換気扇の下にある花にあたつて季節を勘違いしたようです。ガーデニングの腕が上がったと私も勘違いするところでした。

花新聞リポーター
園田静佳
クロスFMニュース・
アナウンサー/
RKBラジオ リポーター



花通信



暮らしの花風景

フラワーフェスティバル

(チャーチ市・ニュージーランド)

ガーデンコンテストの長い歴史を持つ南半球・ニュージーランドのクリエイスト・チャーチ市。昨年11月末に北九州市の花咲くまちづくりコンクールのお手本とも

いえるプライベートガーデンやストリートなどを見学してきました。

夏真っ盛りの2月のフラワーフェスティバル期間中にはコンテスト優勝者の庭などを巡るバ

ス・ツアーも行われます。

「ガーデン・シティへようこそ」という空港沿いの大きな看板と共に、家々の庭には彩りも鮮やかに迎えてくれました。Beautiful!

黄金葉ハリエンジュ、ベニバヌモモ、様々な色合いのモミジやコニファーなどの樹木の葉色をいかした植栽がとても印象的です。Wonderful!

濃い緑葉のアカンサス、青花のアガパンサス、白花のレンガリング・リリー(原生)が群れ



住宅は2百~3百坪位の敷地に床下を低くして部屋と庭が一体となった平屋建てが多く、大きなフロントガーデンは芝生の緑と、草花(丈の低いものが多い)の鮮やかな色彩が強いコンラストをみせています。日本でいう春、夏、秋の花が一齊に咲き、丈の高い草花が多いイングリッシュ・ボーダーとも一味違った光景です。Wide & Marvelous!

「デザイン」と調和、「栽培と管理」などが審査の基準です。

樹木や草花は開拓の歴史とともにイギリスから持ち込まれたものが多く、マウントクリーク国立公園に咲くルピナスの群生も、その歴史ゆえに今後は排除していく方針だそう

です。ガーデニングに適した気候(温暖乾燥、年間気温差少)

は、あまりの限りますが、高溫多湿の九州でも、気候風土に適したガーデン・スタイルを作り出していかねばという思いを強くしました。

花も花づくりの仲間もふやしたい!

陣原2丁目西公園愛護会
(八幡西区)



高須中学校が 「全国花のまちづくり コンクール」で 優秀賞を受賞しました!!

第8回北九州市花咲くまちづくりコンクールで、学校部門の最優秀賞を受賞した若松区の「北九州市立高須中学校」が「全国花のまちづくりコンクール」(花のまちづくりコンクール推進協議会主催)で優秀賞(推進協議会長賞)を受賞されました。全国から寄せられた1,267件もの応募の中からの優秀賞受賞です。おめでとうございます!!

花新聞 トピックス



花まちニュース

陣原2丁目西公園に取材に訪れたのは1月下旬。とても寒い日でしたが、公園の梅や桜の木を見て思わず微笑んでしまいました。いっぱいの蕾たちが春の訪れを予感させてくれたからです。

それで、こちらの公園では毎月第1曜日に「陣原2丁目西公園愛

平成2年に公園の隣に引っ越して来て以来花づくりに参加して、昨年春に会の代表を引き継がれた井戸正明さん(63才)は今までの活動を振り返って「最初の2~3年はただひたすら土づくり。夏場は雑草と追いかけっこで草取り。広い公園なので水やりは特に大変でしたが、皆で手分けしてなるべくたっぷりとあげるようにしました。少しづつ公園の風景も変わつて、居心地がよくなつてきたのでは」と話して下さいました。

ただ、人手が足りないと困

る公園にあるびわの木は、井戸さんが引つ越してきた年に食べたびわの種から成長したとのこと。たつたひと粒の種が大きく成長したように花に関わる人の輪も世代を越えて大きく育つてほしいものです。

(文/園田静佳)



みもあります。井戸さんは活動日以外も暇さえあれば、公園に足を運びます。「花がふえて人が更多な公園かと思うくらい広い公園ですが、すみからすみまでしっかりと耕されています。ほくほくと盛り上がった土はとても柔らかそう。その上には肥料や灰が丁寧にかけられ、土の中で春を待つ種や苗も暖かく感じているに違いありません。

校庭かと思うくらい広い公園ですが、すみからすみまでしっかりと耕されています。土が見事なのです。驚きました。土が見事なのです。校庭かと思うくらい広い公園ですが、すみからすみまでしっかりと耕されています。ほくほくと盛り上がった土はとても柔らかそう。その上には肥料や灰が丁寧にかけられ、土の中で春を待つ種や苗も暖かく感じているに違いありません。

音成 陽子
西日本短期大学造園科講師
／グリーンアドバイザー

